

花きの県別生産出荷概況(9月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	9月出荷見込み 千本		主産地	9月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
トルコギキョウ	青森県	8.55 (117%)		280 (99%)	115 (100%)	つがる市 田舎館村	30	40	30
	秋田県	11.74 (108%)	ロジーナシリーズ ピッコローサシリーズ セレモニーシリーズ 他	627	376	かつの 秋田しんせい 秋田おぼこ 秋田ふるさと こまち、うご	30	30	40
	山形県	30 (99%)	ボヤージュシリーズ ロジーナシリーズ セレモニーシリーズ 他白八重、他ピンク八重、他黄八重 一重 他	1,455 (100%)	871 (119%)	JA新庄もがみ、JA山形もがみ JA新庄市、JA鶴岡 JA庄内たがわ、JA庄内みどり JA山形市 他	35	35	30
	福島県	11.7 (101%)	白八重 ピンク八重 バス紫 他	660 (101%)	500 (101%)	あいづ 会津いいで 会津みどり	30	40	30
	茨城県	10 (100%)	セレモニーシリーズ 他	320	255	笠間市 他	40	40	20
	群馬県	7.9 (91%)	ロジーナシリーズ ボヤージュシリーズ パピヨンシリーズ パルカンマリン	274 (100%)	170 (100%)	利根沼田	35	35	30
	長野県	-	八重各品種 パステルムラサキ パステルピンク 他	2,000 (98%)	550 (98%)	北信 松本 伊那 諏訪	35	35	30
	大分県	-	ワレモコウ 星生の輝き	-	-	日田事業部	-	-	-
輪菊	青森県	13.8 (102%)	岩の白扇 神馬 精の一世	740 (102%)	320 (100%)	五所川原 三戸町	30	40	30
	秋田県	29.4 (91%)	精の一世 岩の白扇 精の曲 スーパーイエロー 精姫、神馬	2,139	1,070	秋田みなみ 秋田しんせい 秋田おぼこ 秋田ふるさと	30	40	30
	福島県	17.1 (96%)	深志の匠 紅御殿 弓戸銀峰 他	1,150 (96%)	980 (96%)	会津みどり	30	40	30
	茨城県	1 (100%)	精の枕 精の一世	323	323	笠間市、筑西市、 銚田市、牛久市、 籠が崎市、稲敷市、 河内市	35	45	20
	群馬県	22 (100%)	笑の湖 サマーイエロー 笑の旭	880 (100%)	710 (85%)	あがつま	35	35	30

バラ	茨城県	11 (98%)	サムライ、ワム、アプリコット、 アヴァランチェ、ファンシーローラ、 シューティングスター 他	630	510	笠間市 筑西市 他	30	35	35
	群馬県	15.3 (90%)	アヴァランチェ、サムライ他多数品種	790 (97%)	700 (100%)	利根沼田 前橋市 甘楽豊岡	25	35	40
	千葉県	3.6 (100%)	サムライ、ザ・テレサ、ローテローゼ、ノ ブレス	140 (100%)	110 (100%)	鴨川市	30	30	40
	山梨県	3.8 (93%)	ローテローゼ、サムライ等	340	310	笛吹市 (御坂町)	35	35	30
	静岡県	40 (100%)	サムライ アヴァランチェ リメンブランシ	1,200 (95%)	1,000 (95%)	JALみず JA大井川 JA掛川市 JA遠州夢吹	30	30	40
	愛知県	-	サムライ08 レッドスター アヴァランチェ クレーア ベイブ 他	2,650 (95%)	1,060 (98%)	JA愛知みなみ JA豊橋 JAひまわり JA西三河	35	30	35
	大分県	6 (100%)	Nシリーズ Mシリーズ Jシリーズ その他各品種	-	-	国東事業部 山香事業部 九重飯田 玖珠九重	-	-	-

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	一部、高温による焼け等が散見されている。病害虫の発生は平年並み。好天で推移から、10日ほど前進出荷となっており、9月出荷は幾分減少する見込み。	<b>現状</b> 上旬は長野、山形主体の入荷。中旬以降は岩手、福島、秋田など抑制メインの産地も本格出荷となる。北海道も出始める見込み。販売面では上旬はお盆需要主体で動きが見られる。また中旬以降はブライダル需要を中心に季節商材としてもまだまだ動きが見込まれる。
	3月、4月定植のものが、1週間ぐらいの遅れで、お盆過ぎからきり始めている。生育状況は地域によっては若干草丈短めのところもあるが、お彼岸出荷のものについては、このところ暑さが続いており、やや前進気味。	<b>見通し</b> 大田花き 天候の影響がなければ例年並みの出荷が見込まれる。しかし高温を受けている産地もあり、徒長した品物や60cmクラスのものなど影響が出る品物もある見込み。販売面ではブライダル、お彼岸、敬老の日と需要も多く活発な取引が見込まれる。
	9月出し作型の生育は順調であり、夜温が低下し始めていることから、品質は良好と見込まれる。病害虫の発生は少なく推移している。	FAJ 彼岸「需要及び、ブライダル需要で堅調な引き合いが見込まれる。 第一花き 業務・彼岸中心の販売、入荷状況にもよるが概ね例年並み @110
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津みどり(坂下):5月定植分が9月上旬から出荷が始まり、6月定植は、9月中旬から順々に出荷が始まる。年々抑制の作型が増えブライダル中心に八重95%、一重5%。</li> <li>・あいつ:短日照処理はほぼ終了し、順調に生育中。高温・強日射により、紫系品種には一部日焼け症状が見られる。</li> <li>・会津いいで:高温等の影響により前進傾向。一部品種に、葉先のチップバーンが見られる。</li> </ul>	世田谷花き 東北・長野などから入荷増える。彼岸以降、婚礼需要増える。 東日本板橋花き 遅れていた分、数量はある程度は確保できそうだが、今後の天候次第で変わってくる。
	・生育は概ね順調で、平年並みの出荷が見込まれる。	
	作柄は並。生育は良好。	
	抑制作型2番花の出荷になるが高温早魃傾向のためやや短丈傾向。集中出荷はない見込み。	
日田事業部(上津江)9月末より出荷開始で10月中旬にかけて1回目の出荷ピーク。		
輪菊	作付けは平年並みであるものの、神馬・白扇には高温による奇形花(花のねじれ)が散見される。出荷量は概ね平年並みを見込む。	<b>現状</b> 8月盆の需要に向けて各産地7月30日(月)販売分より増加傾向。入荷のピークは8月6日(月)販売分。今年のお盆需要は間際買いが目立ち、8日(水)、10日(金)が引き合いのピークに。中旬以降は各産地出荷量減少に転じ、特に業務向け白輪菊上位等級に不足感がで、比較的高値で推移するが、その不足感も下旬には徐々に落ち着いてきた。
	秋田ふるさと:高温による抑制が若干見られるが、9/10~20がピーク。輪菊は110万本出荷予定。生育については、病害虫もなく順調。 秋田みなみ:全体的に前進していたが、ここに来て連日の暑さで抑制がかかってきて、ダラダラとした出荷になりそう。	<b>見通し</b> 大田花き 上旬に関しては特に大きな需要も無く、数量もやや多めで推移することから落ち着いた取り引きになる見込み。中旬以降、お彼岸に向けた取り引きが始まり、中下位等級を中心に引き合いは強くなる。下旬に関しては需要も落ち着くが入荷数量もそれ程多くないことから落ち着いた取り引きになる見込み。
	現在8月咲の晩生品種を主に出荷になっている状況。9月咲については今までの高温・干ばつの影響から全般的に草丈が短めで推移。また、露地・施設ともにダニの発生が目立っている様子。品種構成は深志の匠(黄)がメインでの出荷予定。	FAJ 白:愛知、長崎、栃木。黄色:秋田、宮城、熊本。 白は上位等級中心。下位等級は少なめの入荷。 第一花き 彼岸・業務中心の流れ、色バランスにもよるが概ね例年並み @65
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品質は概ね良好である。</li> <li>・生育は平年並みだが、若干前進している品種あり。</li> <li>・今後の気象次第で高温遅延する可能性有り。</li> </ul>	世田谷花き 入荷量は昨年並みになる見込み。物日もあり単価は強くなる見込み。 東日本板橋花き 彼岸需要で中下旬引き合い強い。
	8月は生育の遅れもなく平年並み。9月も平年並みになる見込み。作付けは平年並み。	

バラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雹による施設被害により、良品出荷の難しいほ場あり。</li> <li>・一部ほ場でハダニ病等散見される。</li> <li>・高温の影響で葉が若干しおれ、芽立ちの悪いものあり。</li> </ul>	
	<p>作柄は平地、山間地ともに並み。 特に病害虫の問題もなく、平年並みの出荷量を見込む。</p>	<p><b>現 状</b> 西南暖地は改植、剪定で減少しており、山形を中心とした高冷地中心の入荷となった。 業務、小売共に需要はほとんどなく、低調な市況が続いていた。</p>
	<p>生育は順調。夏期剪定後の出荷が始まる。</p>	<p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 引き続き高冷地中心の入荷となるが、徐々に西南暖地からの出荷も増加する見込み。輸入量の出荷も本格的に開始する予定。敬老の日や三連休のプライダルなどの需要で引き合いが出始める見込み。</p>
	<p>生育は順調である。</p>	<p>FAJ 宴会需要高まり取り引き除々に活発になる見込み。暑さの影響は例年より少なく安定した入荷。</p> <p>第一花き 需要が多くない時期で、産地間の品質による単価差は出る。ST@65 SP@80</p>
	<p>下階級の出荷が多い状況。9月についても例年通り40-50cmクラス中心の出荷となる見込み。数量的には、生産者減、面積減から出荷量は減少する見込み。</p>	<p>世田谷花き 9月中旬以降プライダルの引き合いが強い見込み。入荷数量は少なめの見込み。</p> <p>東日本板橋花き 入荷は暑さの影響で中・下位等級の入荷が目立ってくる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は昨年に比べ夏の暑さが遅かったこともあり、ややサイクルがずれている。</li> <li>・常時植わっている品目だけに出荷量の波は読みにくいですが、全体的にやや少ない予測がされる。</li> <li>・品質的には一番暑い時期に成長していることから、輪の大きさなどはまだやや小さめで下位等級中心になる。</li> </ul>	
<p>全体的に9月は各産地数量は少なく、10月上旬から増加。</p>		